



令和8年度
学校評価号

令和8年 10月1日
京都市立八瀬小学校
校長 岡崎 秀樹

<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/yasers/>

TEL(781-5092)

令和8年度前期学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。結果がまとまりましたのでご報告させていただきます。全体の回答傾向と、今後の課題として重点的に取り組みたい点について若干の考察を加え、お伝えさせていただきます。今後とも、本校教育活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

各グラフの見方

上段 R8年度

下段 R7年度

- そう思う
- 大体そう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない

楽しい学校

「楽しく学校に通っている」



児童は楽しく過ごすことができている。「あまりそう思わない」と答えている児童が前年度から少し増えている。見えない不安に気づき、悩みがある場合を想定して寄り添うことで児童が心身ともに充実した毎日を過ごせるようにする。

前年度同様に肯定的な回答が得られた。休み時間、校庭で学年問わず走り回っている子どもたち。今年度は学びの学年部交流もとても活発に行っている。多様な他者とともに生きていく未来に向けて、全校児童の交流の機会を工夫していきたい。

友だちとなかよく

「友だちとなかよくしている」



児童・保護者ともに高い評価であった。本校児童は一生懸命学びに向かうことができる。「わかった」「できた」「もっとやってみよう」という達成感を伴った学びを大事にしたい。

学習の理解

「学習内容を理解している」

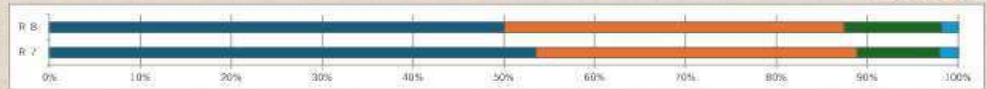


三つの観点について

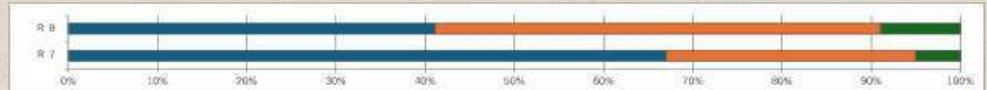
自分の考えを話したり伝えたりすることができていると答えている児童が約半数、だいたいできている評価と合わせると約9割に達している。しかし、聞く力、話し合う力については、両者とも昨年度よりも指数が下がっている。目指す姿をある程度児童に示し、対話という取組を明確に意識したことで児童の自己評価が下がっているとしたら、後期の結果に期待したい。

友達と活発に話し合う授業場面は、自らの学びが実感できる面と、他者と対話することでより深い学びが得られるという側面がある。本校研究のテーマである「対話」を充実させるとともに、価値づけが必要と考える。

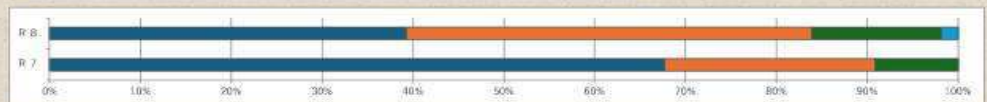
「自分の思いや考えを話したり伝えたりする力がついてきている」



「人の話をしっかりと聞く力がついてきている」



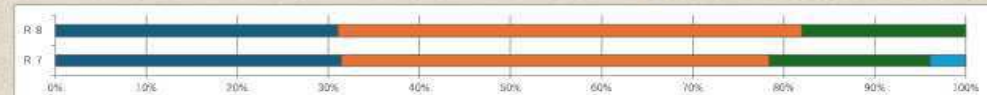
「授業で友だちと話し合うことができている。」



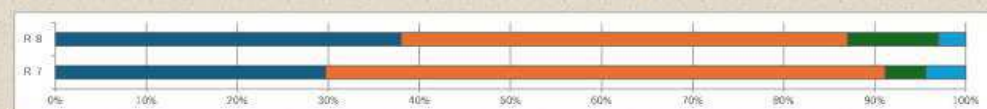
「自分の思いや考えを話したり伝えたりする力がついてきている」



「人の話をしっかりと聞く力がついてきている」



「授業で友だちと話し合うことができている。」

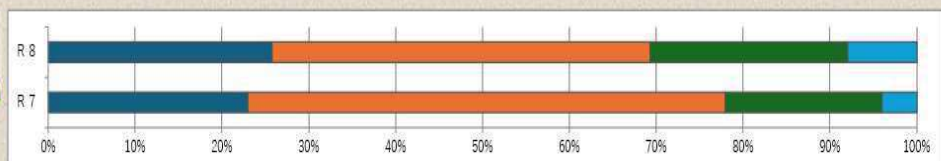


進んで家庭学習！

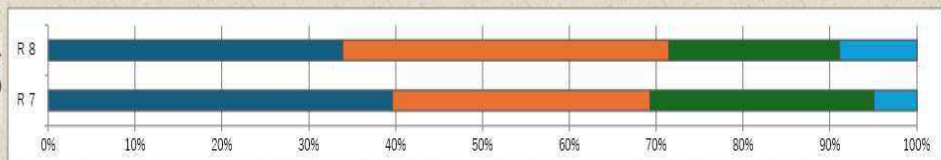
「進んで学習に取り組む」



保護者



児童



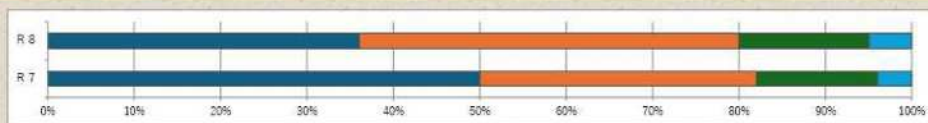
児童・保護者ともに約3割が十分に取組めていないと回答している。（家庭以外の場で宿題をしている場合、現れないこともある）この結果を踏まえ、自ら家庭での学習に過度の負担なく取り組めるような段階的な指導を工夫する。内容について様々な例を示し、自主学習ノート等も活用して、学習の楽しさや学ぶ意義（特に高学年）を見出し進んで取り組めるようにする。低学年は特に、保護者の方には励ましと見守りをお願いしたい。

外遊び

「外遊びをしたり体を動かして遊んだりしている」



保護者



児童



熱中症が懸念される7月のアンケートということが指数の下降と関係していると思われる。普段から運動場で元気に異学年で、教員も交えボール遊びや鬼ごっこに興じることもある。また、月曜日の放課後はPTA主催の部活動にお世話になっている。

あいさつは、コミュニケーションの一つと捉え、進んで行う姿を目指している。自分から「おはよう」や「ありがとう」といった姿も見られるが、学年によって相手意識が異なるように思う。学校と家とでは様子が異なることも推察される。児童全員が「そう思う」と回答できることを目指す。

あいさつ

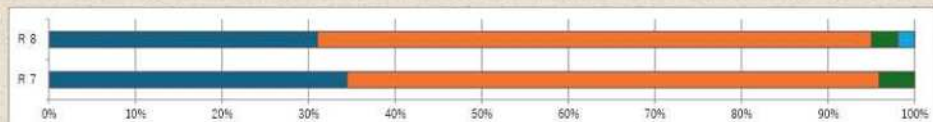
「気持ちのよいあいさつをしている」



保護者



児童

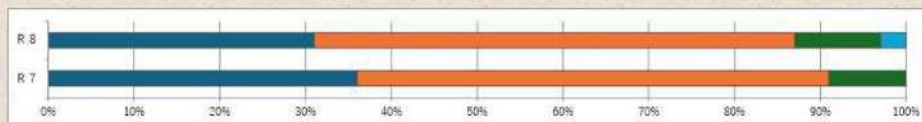


早寝・早起き・朝ごはん

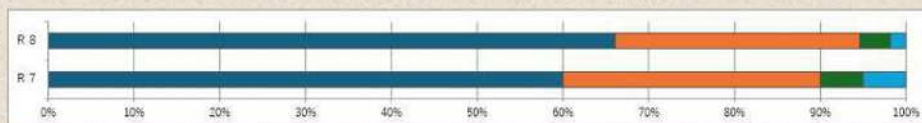
「早寝・早起き・朝ごはん等、規則正しい生活習慣が身についている」



保護者



児童



児童と保護者の約9割が「そう思う」「大体そう思う」と肯定的に捉えている。心身の健康は、学習意欲や集中力等学びに大きく影響する。ご家庭の協力を得ながら、望ましい生活習慣について児童自ら意識できるよう支援していく。

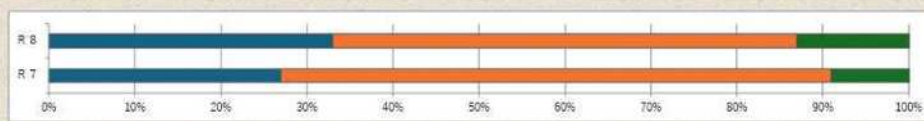
児童・保護者ともに、約9割の肯定的回答が見られる。本項目は、他者へのおもいやりが行動としての結果に現れる側面があると考え。なぜ守る必要があるのか、なぜそうになっているのか、「なぜ」を意識し、自律的行動となるよう引き続き支援していく。

約束・ルール

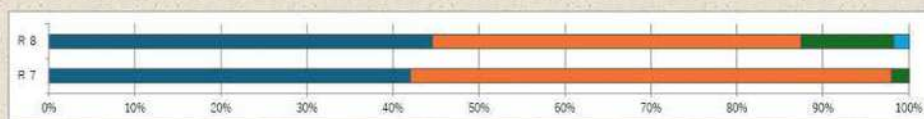
「家庭での約束や社会のルールを守っている」



保護者



児童



地域行事・伝統文化

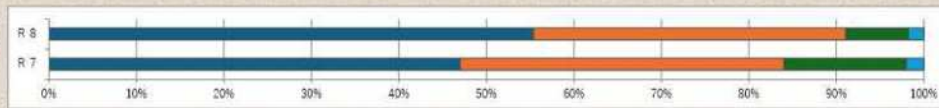
「PTAや地域の行事、伝統文化にかかわる行事に進んで参加している」



保護者



児童



地域との行事への出席率は高い。伝統と文化が身近に存在し、地域の方が大切に継承されている唯一無二の貴重な経験の機会にも恵まれている。

今年度は、地域の方に伝統と文化について、直接お話を聴く機会を設けていただいた。先人のおもいを知り、すてきな地域の一員であるという自覚をもってほしい。

八瀬のお話



家庭教育
学級講座

9月18日

③八瀬のお話

④情報モラル

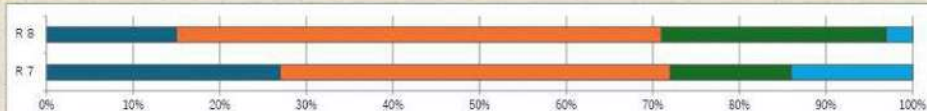
家庭教育学級講座
ありがとうございました！

SNS

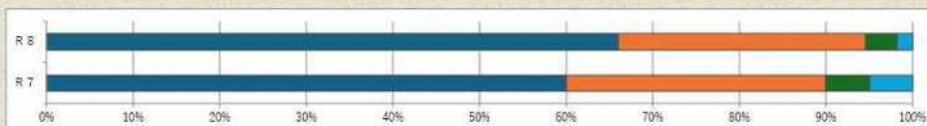
「ゲーム・スマートフォン・インターネット・SNSのルールを守っている」



保護者



児童



児童は、ルールを守ろうという意識は高く、昨年度に続き情報モラル教育は重要視していく。保護者との差の開きが気になる。児童自らルールの必要性を理解し、言われなくても自己調整ができるように支援していく。また、各家庭でも児童と許容範囲（時間、用途等）を共通認識しておくこともご協力いただきたい。

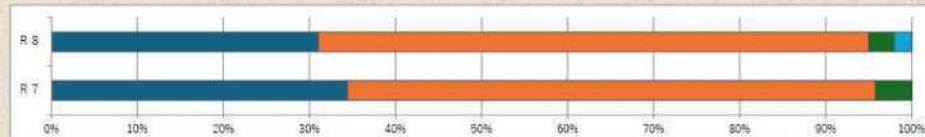
おおむね肯定的に捉えていただいている。学校、学年からの様子の発信に今後も取り組んでいきたい。学校だよりについては、次年度はすぐの配信を検討したいと考えている。

情報発信

「学校は学校だよりやホームページなどで情報発信している」



保護者



～ご協力ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします～